「Who is Bad」

（後編）

―２稿―

2024/12/31

米俵

〈人物表〉

新木　くるみ　（21）　大学生
佐伯　美波　（21）　大学生
大橋　凌　（24）　会社員

〈ログライン〉

（後編）・くるみは、美波の裏切りを知って、元旦に復讐する話

〈ねらい〉

・二面性を書く

1.　くるみのマンション・通路（早朝）

くるみ、泣き腫らした目で、下を見ている。

大笑いしている美波が見える。

くるみ、綺麗にネイル（ジェルネイル）された爪を噛む。ガリガリと音がする。

2.　くるみの部屋・室内（夜）

真っ暗な部屋。くるみの顔がスマホの明かりで浮かび上がっている。

凌へ電話をかける。すぐに、繋ぐことが出来ないというアナウンスが流れる。

次に、美波の番号を探し、電話をかける。

つながらず、イラだった様子でスマホを投げる。

有名ブランドのロゴの入ったスマホカバーが取れる。

3.　くるみの部屋・室内（朝）

閉め切ったカーテンから、朝日が差し込む。

くるみ、夜の状態と変わらない姿勢。

美波のSNSを爪を噛みながら、凄い形相で見ている。

スマホのカバーは取れたまま。

一枚の写真を見て、スクロールしていた指を止める。

画面を指で広げる仕草。

うめき声をあげながら、自分の髪を引っ張る。

4.　美波の部屋・ドア前（夕）

ドア前に、顔をふさぎ、しゃがみこんでいる女。ラフな部屋着にブランドのつっかけサンダル。上着を着ておらず、真冬とは思えない服装をしている。髪も乱れている。

美波がそこへ帰ってくる。

ドア前の女に気付き、思わず声が出る。

美波の声に女が顔をあげる。くるみである。すっぴんに目の下のくまが目立っている。

美波　「えっ……待ってたの？」

くるみ、黙ってうなずく。
美波　「寒いでしょ。入って」
美波、くるみを部屋へ入れる。

5.　美波の部屋・室内（夕）

美波、温かいお茶を出す。
それをゆっくりと飲むくるみ。指輪は、はめられたまま。

美波　「まだ、連絡ないの？」
くるみ、黙ったまま、うなずく。
くるみ「美波ちゃんのとこには、折り返しきた？」
美波　「きてないよ」
くるみ「本当に？」
と、うつろな目で、美波を見つめる。
美波　「うん。今は……待つしかないかもね」
くるみ「番号変えられちゃったかも」
と、スマホを見る。発信履歴には、凌の名前が大量に並んでいる。
くるみ「婚約したと思ってたのに、酷いよね……」
美波　「……」
くるみ「凌ちゃんのこと……許せない」
美波　「……そうだね」
くるみ「美波もそう思うよね？　じゃあ、協力してくれない？」
美波　「何するの」
くるみ「凌ちゃんのお給料のいくらかを毎月貰いたいの」
美波　「えっ？」
くるみ「慰謝料だよ」
くるみ、目が座っている。
美波　「ちょっと待って。落ち着いて」
くるみ「本気だから」
美波　「それは、無理かなって思う。法律的にも……」
くるみ、涙を流し、手で顔を覆う。
くるみ「……悔しい」
沈黙が流れる。

美波　「くるみ、眠れてる？」

くるみ、首を振ってから、

くるみ「今日……泊まってもいい？」

美波、少し考えて、

美波　「……いいよ。話聞くから。全部吐き出そう」

と、くるみの背中をさする。

6. 美波の部屋・室内（深夜）

暗い部屋。美波、寝落ちしてしまったかのように、床で眠っている。

7. 美波の部屋・トイレ（深夜）

くるみ、スマホをいじっている。

数字を打ち込むが、暗証番号のエラーが出る。その後も、繰り返し数字を打ち込む。

スマホが開き、メッセージのやり取りを確認する。

美波と凌のやり取りが出てくる。

爪を噛みながら、読み進めていく。親指のジェルネイルがべりべりと剥がれていく。

8. 美波の部屋・室内（朝）

窓から朝日が差し込む。

くるみ、朝食の準備をしている。右手のジェルネイルは、全て剥がれている。

床に寝ていた美波が目を覚ます。

くるみ「おはよう」

明るい表情になっている。

美波　「おはよう。元気になった？」

くるみ「美波のおかげで」

と、満面の笑み。

くるみ「勝手に台所使っちゃって、ごめんね」

美波　「全然いいよ」

と、笑顔の二人。

9.　美波の部屋・玄関（昼）

くるみ、美波の部屋を出ていく。笑顔で手を振る。

美波も手を振り、見送る。

10.　くるみの部屋・室内（夜）

部屋中に物や服が散らばり、荒れた状態。

くるみ、美波へ電話をかける。

美波の声「もしもし」

くるみ「……」

美波の声「くるみ？」

くるみ「美波ってさ、自分のことは後回しって感じで、いつも優しかったよね」

美波の声「え？　急にどうしたの」

くるみ「なんか、今までのこと思い出して」

美波の声「そんなことないと思うよ」

くるみ、聞こえないぐらいの声で、

くるみ「……そうだね。作られただけだった」

美波の声「え？」

くるみ、不敵に笑いながら、髪を抜く。

くるみ「私ね、やっぱり実行しようかなって」

美波の声「何を？」

くるみ「慰謝料」

美波の声「ああ、それ……。昨日も言ったけど」

くるみ「無理なんでしょ？」

美波の声「そう思う」

くるみ「でも、やっぱり諦められない」

美波の溜息が聞こえてくる。

美波の声「あのさ、今のくるみに言うのは酷かもしれないけど」

くるみ「うん、大丈夫。美波の言葉なら」

笑顔のくるみ。

美波の声「人同士の付き合いって、１００％片方が悪いってないんじゃないかな」

くるみ「……」

美波の声「お互いにね。悪いところとか……」

くるみ「５０／５０(フィフティフィフティ)ってこと？」
美波の声「そう、かな」
くるみ、大声で下品に笑い始める。
美波の声「どうしたの？」
くるみ「美波、凄いね」
美波の声「分かってくれたの？」
くるみ「一番悪いことしておいて」
美波、黙っている。
くるみ「私が知らないと思ったの？」
美波の声「……何が？」
くるみ、小声で何かを言う。美波は、聞き取れない。
美波の声「ごめん。よく聞こえない」
くるみ、はっきりと低い声で、
くるみ「許さないから」
くるみ、電話を切ろうとすると、受話口から、クスクスと笑う声が聞こえる。
眉間に皺を寄せ、もう一度受話口に耳をつける。
美波の声「パパ活女がうるせーよ……」

１１.

都内の神社（夜）

本殿へ続く長い階段。人が隙間なく並んでいる。
参拝客でカウントダウンが始まる。
美波、凌と腕を組み、一緒にカウントダウンを始める。幸せそうな笑顔の二人。
年が明け、周りの人とハイタッチして喜ぶ二人。
少しずつ列が動き、本殿へ近付いていく。本殿へ近付く程、押し合いへし合いとなる。
美波、凌とはぐれる。
美波、急いで、賽銭を投げ、手を合わせる。
出口へ向かおうとしたその瞬間、
女の声「５０／５０でしょ？」
美波「んっ」
呼吸が荒くなる。
美波のコートに血が滲む。

美波、女に手を伸ばすが届かない。人込みの中で、少しずつ見えなくなっていく。

美波、苦しそうな表情。人込みに埋まっていく。

12. 裏道（夜）

神社から少し離れた道。凌、電話で話している。

凌「あけおめ、あけおめー……いや、美波とはぐれて、連絡待ち……それな、分かる、分かる。賽銭投げるのも戦争だわ」

人気のない道に凌の笑い声が響く。

その瞬間、凌の腕に女が飛びついてくる。

凌、驚く。腕の方を見て、

凌「あっ、みな――」

女が顔を上げる。満面の笑顔のくるみ。

くるみ「凌ちゃん」

くるみの指には凌からもらった指輪が光っている。

（おわり）